GENERAL INCORPORATED FOUNDATION BACH GROVE

バッハの森通信

第157号
2022年
10月20日発行

一般財団法人バッハの森
〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 http://www.bach.or.jp
☎ 029-847-8696／Fax 029-847-8699 e-mail：info@bach.or.jp
郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

感動を楽しもう

正しい解釈によって

夏休み中に不愉快な三つの事件が話題になりました。先ず世界中が猛暑に喘ぎ、世界各地が大水害と大干魃という相反する自然災害に襲われました。今や異常気象が常態化した地球に、いつまで人類は住み続けられるかと、ようやく人々は真剣に考え始めました。

次の話題は、ロシア大統領プーチン氏の時代錯誤的軍事侵攻です。彼が続ける破壊と殺戮に世界中がかき乱されました。最近、ロシア軍が一部地域で敗北撤退したと報道されましたが、まだまだ戦争は続きそうです。国際社会はウクライナを援助しますが、犠牲を払ってまで本気でプーチン氏を止めようとしないからです。

第三の話題は、日本国内で起きた事件です。韓国系のカルト団体、旧統一教会が、母親をマインドコントロールして多額の献金をさせ、彼の家庭を崩壊させたことに復讐しようとして、その宣伝を務めていると目した安倍元総理を、Y氏が街頭で選挙演説中に銃撃して死に至らしめた事件です。この事件を発端に、このカルト団体と政治家、特に自民党の国会議員の癒着が取り沙汰されました。議員にとっては、選挙のときに組織票を得るため、旧統一教会にとっては日本人から多額の献金を集めるためという両者のご都合主義的連携が明らかになりました。

＊　＊　＊

このうち第一の問題が最も重要なことは言うまでもありませんが、分からないことが多すぎるので、先ず学ぶ必要があると考えています。しかし第二、第三の問題については語りたいことがあります。どちらもバッハの森のテーマであるキリスト教文化、乃至は「聖書」と関係しているからです。

最近、劣勢を立て直す必要に迫られたプーチン氏が予備役の動員に踏み切ったため、ロシア各地で反戦デモが起こりました。すると彼の盟友、ロシア正教会の大司教が、祖国防衛のために戦死した者の罪は許されると教えました。勿論、宗教的な意味の罪です。他方、マスコミ報道によると、旧統一教会は、アダムの末裔である韓国人を、エバの末裔である日本人が苦しめたから、今、先祖が地獄で苦しんでいる。統一教会に献金すれば先祖が救われると教えているそうです。どちらも聖書に基づく教えのようですが、どちらも間違っています。救いは神の恵みであって、善行を積むことでは得られないと聖書は教えていますから。

聖書は神の言葉である、従って、聖書に書いてあることは正しい、という信仰がキリスト教文化圏、欧米では広く流布しています。ただし逐語的に正しいと信じている人はもう多くないでしょう。たしかに、17 世紀にコペルニクスの地動説を支持して宗教裁判にかけられ処罰されたガリレオ・ガリレイの名誉回復は300年後の20世紀末になりましたが、それまでに、地球が太陽の周りを回っているという知識は、大多数の人々の常識になっていました。従って、聖書が伝えることの正しさは、正しい解釈を通してのみ人々を説得することができるのです。

＊　＊　＊

イエスの弟子たちが、復活したイエスに出会ったと表現した感動を証言してキリスト教は始まりました。バッハの音楽は、彼が聖書の言葉を正しく解釈して、イエスの弟子たちと同じ感動を覚えて作曲したことを示しています。これは、バッハの森で私たちが追求してきた感動です。皆さん、ご一緒にこの感動を楽しみませんか。（石田友雄）

親子で楽しみました

夏 休 み の 音 楽 会（7月24日）

7月に親子で、ハンドベル・リンガーズのメンバーとして、コンサートに初めて参加させていただきました。ハンドベルとの出会いは、去年 12 月にバッハの森で開かれた「クリスマスの音楽会」に聴衆として参加したことに始まります。小学校2年生の娘は保育園で少々ハンドベルをしたことがあったので、馴染みのある楽器の演奏なら楽しんでくれるかなと思い参加したのですが、コンサートの後でハンドベルを体験したい方、どなたでもどうぞ、と体験プログラムに誘われ、娘と一緒にハンドベルを鳴らしてみたらとても楽しかったので、9月から親子でハンドベル・リンガーズに入れていただき、今回はメンバーとしてコンサートに参加させていただいたわけです。

毎月1回、日曜日午前中に開かれる練習会では、先生たちが大変熱心に、しかし優しく指導してくださり、以前から活動していた小学高学年のお兄さんたちやお姉さんたちも私たちを歓迎してくださったので、すぐリンガーズに溶け込むことができました。

練習を続けるうちに、娘がそれまでうまく演奏できなかった箇所をすこしずつできるようになるのを見ることもできました。時々、先生たちの音楽に対する情熱に気圧されることもありましたが、徐々に演奏中に他の人たちと呼吸を合わせることや、アイコンタクトをすることで演奏が良くなっていくことを実感できるようになりました。私が子どもの時できなかった難易度の高いことを経験させていただいていると思いました。娘は「練習中立っぱなしなので疲れるけど、音楽が出来ていくのが楽しい」と言っており、練習を嫌がることはありません。そして7月にコンサートがあると聞いたときは、私たちのような初心者でも大丈夫なのか、と思いましたが、先生たちに励まされて経験してみようと考え、メンバーとして参加させていただくことにしました。

そして本番当日、娘は工作プログラムの木琴作りで、楽しそうに木琴作りをしていました。そのときは「私の作った木琴、とてもいい音がするよ」と言って緊張の様子は見えませんでしたが、その後のコンサートになるととても緊張していることが伝わってきました。ステージの上でカチコチになって、とてもアイコンタクトどころではなくなり、それでも頑張ってハンドベルを振っていました。コンサート後に「どうだった？」と聞いてみたら、「間違えたらどうしようと思ったら緊張した。少し間違えちゃったけど、大丈夫だったかな」と言っていました。後で先生方から娘が「上手に演奏できたね」と賞めていただき、とてもありがたかったです。

ハンドベル・リンガーズのメンバーとしてコンサートでは優しいメンバーに囲まれ、とても良い楽しい経験をすることができました。娘に「クリスマスにまたコンサートがあるけれどやりたい？」と聞くと、「やりたい！」と即答していました。今後は娘から「お母さんと一緒にやるのは嫌！」と言われるまでは、親子で続けていきたいと願っております。今後とも宜しくお願いいたします。

（宮田てるみ）

ハンドベル・リンガーズ

木琴作り

美しく鳴り響いた楽の音

バロック音楽の花束

去る10月10日にバッハの森記念奏楽堂で開かれた、ソプラノの鈴木美紀子さん、チェンバロの鴨川華子さんによる「バロック音楽の花束」という演奏会を聴きました。今回のプログラムは、ヘンデルとヘンリー・パーセルの歌曲をそれぞれ4曲と5曲、それにチェンバロ独奏で J. S. バッハのカプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」（BWV 992）を間に挟むという構成でした。この選曲の特徴は、バッハを除き、これらの音楽がすべてイギリスで書かれたということです。

ヘンデルはドイツ人ですが、とても“国際的”な活躍をした人です。20 歳そこそこでイタリアに修行に行き、帰ってきて一旦はドイツの宮廷に就職するのですが、すぐに職を放り出してロンドンに逃げてしまい、そこでイタリア語のオペラを作曲して大成功を収めます。そのままロンドンに住み着いて名前も英語風に「ハンデル」にして活躍していたら、なんと逃げた職場の雇い主のハノーファー選帝侯がイギリス国王ジョージ 1 世になってロンドンに来てしまったので、ご機嫌伺いに書いたのが「水上の音楽」だというよく知られたお話は、今ではあまり信用されていないのですが、とにかくこの後もヘンデルはずっとロンドンで活動して、この演奏会で取り上げられたような美しい音楽を沢山書くわけです。1 曲目の「オンブラ・マイ・フ」“Ombra mai fu”はずいぶん前にテレビ CM で使われていたので、恐らく多くの皆さんがご存知だったでしょう。3 曲目の「泣かせてください」“Lascia ch'io pianga”もよく知られている歌です。

他方、ヘンリー・パーセルのほうはそれほど耳にする機会がないかもしれません。今でも“イギリス史上最高の作曲家”と言われることがあるくらい重要な人なのですが、若くして亡くなったこともあって、死後あまり顧みられませんでした。近代になると再び高く評価されるようになりますが、その割に録音は少なくて、私の若いころ、1980 年代前半はパーセルの劇音楽というと「ディドとエネアス」か「妖精の女王」にほんの少しの録音があるだけで、ようやく買い求めた「妖精の女王」の LP を擦り切れるくらい聴いたものです。今日のプログラムには、その「妖精の女王」から 2 曲選ばれていて、とても懐かしく思い出しました。

チェンバロ独奏曲の「カプリッチョ」は、バッハがまだ 10 代のころ、ドイツからスウェーデンに旅立つお兄さんのために書いたとされる音楽で、表題のついた 6 つの小曲から構成されています。若いときの作曲とは思えないほど工夫を凝らした楽曲です。

さて以上、曲目の紹介をしました。ここで、畏れ多いのですが、少々演奏について書かせていただきます。鈴木さんは、恐らく御自分がお好きな曲目ばかりを選ばれたのでしょうか。ほとんど楽譜を見ないでよく響く声でのびやかに歌っていらっしゃいました。チェンバロ伴奏は控えめながら、ときには歌唱をリードするような音楽の構造をくっきりと浮かび上がらせていました。これは、チェンバロ独奏のバッハの曲についても同じです。

会場はほぼ満席だったので、人に吸われて響きが弱まるかと恐れたのですが、楽器も歌声も奏楽堂の天井まで届くように美しく鳴り響いていました。

最後の「夕べの讃歌」“An Evening Hymn”の低音の繰り返しの上に乗る「ハレルヤ」は、本当に心に染みいるようでした。

最後にバッハの森らしく「喜べ、わが魂」“Freu dich sehr, o meine Seele”を斉唱して演奏会を終了しましたが、その後でさらにオルガニストの宮本とも子さんが、セミナーホールに備えてある鍵盤楽器を紹介してくださいました。特に新しくはいったクラヴィコードは大変に美しい響きをしていました。

（深谷律雄）

日　誌（2022 7.1～9.30）

＊R：オンライン参加

7.2　**運営委員会**　参加者 6 名（R 1）。
7.23　**到着**　K・R・ヒル工房（ミシガン USA）より クラヴィコード。
7.24　**夏休みの音楽会** 参加者 55 名（大人 20 名、子ども 15 名、演奏者 20 名）。
8.5　**草取り** 1 名。
8.6　**草取り、剪定**　2 名。
8.29、30　**修繕工事**　ニットウ工業（資料館玄関の白蟻駆除）。
9.2、3、6　**草取り** 1 名、2 名、1 名。
9.6　**秋のシーズン開始**
9.10　**運営委員会**　参加者 6 名（R 1）。
9.17　**準備会**　クリスマスの音楽会 参加者 10 名。
9.19　**修繕工事**　ニットウ工業（資料館玄関の白蟻駆除完了）。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ
コラール・カンタータ入門

カンタータ：J. S. バッハ「見よ、何という愛を私たちに御父は示されたか」（BWV 64）
コラール：M. ルター「イエスきみを褒めよ」
B. キンダーマン「何をわれは世に求むるか」　J. フランク「主よ、喜び」
オルガン：
9.10　別所香苗。参加者 9 名。
9.24　笠間きよ子。参加者 7 名。

学習コース

バッハの森クワイア　9.10／9 名、9.17／10 名、9.24／10 名。
オルガン音楽研究会　9.16／7 名、9.30／10 名。
オルガン・クラブ　9.9／3 名。
歴史書・聖書入門　9.10／7 名（R 1）、9.17／4 名、9.24／5 名。
器楽アンサンブル　7.9／4 名、7.23／4 名。
声楽アンサンブル　7.2／7 名。
ハンドベル・クワイア　7.2／4 名。
ハンドベル・リンガーズ　7.3／13 名、7.24／9 名、9.18／9 名。
オルガン・レッスン　9.16／2 名。
クラヴィコード・レッスン　9.30／2 名。
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習
7.2／1 名、7.6／1 名、7.9／2 名、7.12／1 名、7.22／1 名、7.23／2 名、7.26／1 名、7.28／1 名、7.29／2 名、8.2／1 名、8.5／2 名、8.6／1 名、8.26／1 名、8.30／1 名、8.31／1 名、9.1／2 名、9.2／1 名、9.3／2 名、9.6／1 名、9.7／1 名、9.9／2 名、9.10／2 名、9.14／2 名、9.15／1 名、9.16／2 名、9.20／1 名、9.21／1 名、9.23／1 名、9.24／1 名、9.27／1 名、9.28／1 名、9.29／2 名、9.30／2 名。

寄付者芳名　（2022.7.1～9.30）

クラヴィコード
キース・R・ヒル工房製作、2011 年／2022 年